

県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表)2710(内線:県病ニュース係)
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

耳鼻咽喉科

スギ花粉症に対する 舌下免疫療法を始めました。

現在、全国民の30～40%が何らかの抗原に対するアレルギー性鼻炎を有していると言われ、その代表的な抗原がハウスダストとスギ花粉です。

残念ながら根本的な治療法は現段階では存在しませんが、最も根本的治療に近いと言われているのが免疫療法です。

免疫療法はハウスダストやスギ花粉から抽出した抗原刺激物をアレルギー症状が出現しない程度の少ない量で継続的に体に暴露させる治療法です。この継続的少量の刺激によって体を抗原に慣れさせ、ある程度の抗原刺激でもアレルギー症状が出現しにくくなる体質にすることを目的としています。

2014年から国内においてスギ花粉症に対する舌下免疫療法が施行可能となりました。以下に治療のポイントについて説明します。



- ①12歳以上が対象となります。
- ②毎日、最低3年間は舌下投与を行います(自宅で)。
- ③舌下投与部位の口腔粘膜の腫脹が出現することがあります。
- ④2015年は2週間に1回、耳鼻咽喉科受診が必要です。
- ⑤60～70%程度の人にある程度の治療効果が期待できますが、完全に症状が消失する訳ではありません。各年のスギ花粉の飛散量により症状が左右されます。
- ⑥開始時期はスギ花粉飛散が終了してからです。



パンフレット表紙



パンフレット一部ページ抜粋

スギ花粉症に対する舌下免疫療法の詳細は当院耳鼻咽喉科外来にパンフレットを準備しております。よろしければ来院の際にご覧ください。



(耳鼻咽喉科 部長 須小 毅)

循環器内科

慢性心不全治療に対する
両心室ペーシング治療(心臓再同期療法)

心不全患者さんは労作時^{※1}の易疲労感^{※2}や息切れ、むくみなどの症状を自覚するようになります。慢性心不全とは心臓の機能が低下し循環障害が持続することで、さらに臓器血流の障がい、うっ血所見、ホルモンバランスの異常を招き、症状が持続、増悪することで、日常生活動作(ADL)の障がい顕著になる病気です。心不全治療は、日常生活指導や原因疾患の治療を行いながら、薬物療法を行うことで活動性の向上と生命予後の改善を目標に行われます。



慢性心不全患者さんの中には、心臓そのものが大きく拡大し(心拡大)、心臓が十分に収縮できない(収縮不全)を呈している方がおり、前記の治療では十分に改善しない方がいます。拡張型心筋症や虚血性心臓病がその代表的な疾患で、これらの心臓では、心拡大のため心臓を流れる電流に時間を要し(脚ブロック)、心臓がタイミングよく縮めなくなっていることがあります。

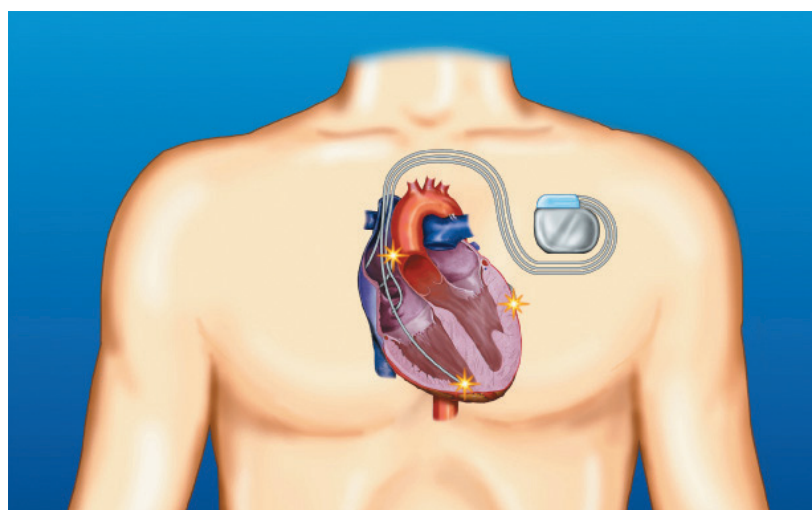
このような、心拡大、収縮不全、脚ブロックを呈した患者さんに**両心室ペーシング治療(心臓再同期療法)**を行うことで、約7割の患者さんに活動性と生命予後の改善が得られることが証明され、世界中で治療が行われています。

当院では2013年7月より、両心室ペーシング治療を行うようになり、治療を行っています。2本から3本の電線(電極リード)で心臓を挟み込むようにペースメーカー治療を行います。患者さんの病態によっては、除細動機能付きリードを使用することも可能です。(図 参照) 予後の改善は勿論ですが、患者さんが少しでも楽になることを目的とした治療です。

(循環器内科 副部長 河野 俊一)

※1) 運動などの少し激しく体を動かした時のこと

※2) ちょっとしたこと、すぐに疲れてしまう感覚



両心室ペーシング治療



除細動機能付き両心室ペースメーカー